

日々のあれこれ

iHola! 皆さんこんにちは。先日は「鳥取県協力隊を育てる会」様より、年末のギフトとしてお餅等、たくさんの日本食が届きました。現地の方々と集まる機会に頂こうと思い、まだ少ししか味わえてはいませんが、地球の裏側までどんな道のりをたどってきたのだろうと想像すると有難さもひとしおです。コロンビアでの初めての年末年始に大事に頂きたいと思います。



○ 「PAISA」って?

私の住んでいるメデジン市で使われている言葉で、「地元の人」という意味です。2年間で私も「PAISA」の仲間入りしたいという想いを込めてこのタイトルにしました。

コロンビアのクリスマス

コロンビアは国民の多くがカトリックなので、クリスマスは宗教的にとても大切にされています。日本のように12/24・25だけでなく、1か月かけて様々なイベントがあり、何度も家族で集まりお祝いします。ただ、クリスマスは同僚や友人というより家族で集まることが多いので、少数派の外国人として過ごしているとホームシックのような寂しい気持ちにもなる時もあります。せっかくなのでたくさん出かけてお祭りムードを楽しみたいと思います。

果物いろいろ



今回はtomate de árbol、直訳すると「木のトマト」について紹介します。スーパーではフルーツコーナーに売っています。その名の通り木になり、普通のトマトと同じナス科です。コロンビアを含むアンデス地域でよく食べられています。皮は薄いので食べません。果肉もそのまま食べると酸味が強いので、ジュースやコンポートとして食べることが一般的です。日本で売っているトマトジュースのような野菜感は少ないですが、トマトトロッキー味もします。美味しいので南米に来られる機会があれば是非お試しください!★



車イス提供 プロジェクト



配属先の市役所では、毎年必要な方に車いすを提供するプロジェクトを行っています。3回の訪問で評価→車イス提供→モニタリングの流れで実施していますが、この訪問の過程に同行し、より本人の自立に役立つための改善提案等を行っています。

貧困エリアは特に街の中心部から離れた、写真のように階段に囲まれた場所で暮らしている方も多く、社会参加の大きな障壁になっています。室内では車いすが使えて、一歩外に出ると使えないで家族が背負って移動している方もいました。すぐに大きな変化は難しいですが、1人でも多くの人が市民としてコミュニティに参加し、当事者目線でのまちづくりが進められるように、協力隊という私の立場でも出来ることをやっていきたいです。

PAISA

~コロンビア日記~

Vol.4

2025.12.26

板 華子



コロンビアではアジア人は珍しく、道端で見られたり「チノ(中国人)」と言われたりすることが日常です。「アジアではネズミを食べるんでしょ」もよく聞かれます。多くの人は全く悪気はありませんが、嫌な気持ちになることもあります。その度、私自身も相手に対して勝手なイメージで捉えていないか、自分自身も振り返るようにしています。

所感

もうすぐ派遣から1年が経とうとしています。大きな組織の中で、言葉の壁から情報も得づらく、自分の無力さを感じる日々でした。そんな中で同僚やホストファミリーを中心に、本当に多くの方々に支えされました。落ちこんでいるといつでも周りの人が話を聞いて、抱きしめてくれます。ネガティブな感情もきちんと表現して共有することの大切さを教えてもらいました。あと1年、小さいことでも求められたことに真摯に向き合い、コロンビアの美しい景色をたくさん見て、何よりやっぱり安全に元気に過ごしていきたいと思います。

日本の皆様も良いお年をお迎えください。

板 華子 (いた はなこ)

コロンビア・メデジン市役所配属
ソーシャルワーカー・南部町出身

○Instagramも時々更新しています。右のQRコードかアカウントhana_en_colからご覧ください。



@HANA_EN_COL